

上司の三盗

研修会で、先輩教員から表題の言葉をいただいた。

「上司は、部下の時間を盗むなかれ」「上司は、部下の仕事を盗むなかれ」
「上司は、部下の手柄を盗むなかれ」の三つである。ここでいう上司とは、先輩教員のことであり、部下とは若手教員のことと考えたい。

一つ目の「部下の時間を盗むなかれ」というのは、職場で仕事に専心している部下に無用な声掛けをして、部下の仕事の時間を奪ってはいけない。二つ目の「部下の仕事を盗むなかれ」は、部下がすべき仕事を奪って、部下の代わりに仕事をしてはいけない。三つ目の「部下の手柄を盗むなかれ」は、部下が成し遂げた成果を、あたかも自分の功績のように振る舞ってはいけないということである。

多くの先輩が教育現場を去り、自分より若い教員が多数、学校に配属されるようになった。指導される立場から指導する立場になっている自分に気付く。

これから、学校には若い教員がたくさん入ってくる。若い教員が試行錯誤しながら仕事に打ち込む姿を見守ることが大切である。そして、悩みや疑問を相談してきたときこそ、時間を惜しまず一緒に考える上司(先輩)であれ。また、仕事は、苦勞しながらやり抜いてこそ、身に付くもの。決して、体裁にこだわって、部下(後輩)の仕事を肩代わりしてはいけない。陰ながら支える縁の下の上司(先輩)であれ。「君だからこそ、できた仕事だ。ありがとう。」と部下(後輩)のやる気に火をつけ、成果と一緒に喜ぶ上司(先輩)であれ。

研修会でいただいた「上司の三盗」には、こんな意味がこめられていたように思う。

若い頃に出会ったたくさんの先輩たちの姿を思い出した。